



Archives & Records  
Association  
UK & Ireland

ica.ORG  
International Council on Archives

## Advocating for Archives and Records: The Impact of the Profession in the 21st Century

### アーカイブと記録の戦略的普及 21世紀、この専門職域のインパクト

International Conference 2011  
Edinburgh

第1回

英国・アイルランド アーカイブと記録協会年次大会  
ARA&ICA/SPA エジンバラ国際会議 2011  
参加報告

ヒルトン・グロスベナー・ホテル  
エジンバラ・英国

Hilton Grosvenor Hotel  
Edinburgh

2011年8月31日-9月2日

31st August - 2nd September 2011

# 復命書

## 第1回

### 英国・アイルランド アーカイブと記録協会年次大会 ARA&ICA/SPA エジンバラ国際会議 2011

#### アーカイブと記録の戦略的普及 21世紀、この専門職域のインパクト

#### 参加報告

2011年8月31日、第1回英国・アイルランド アーカイブと記録協会年次大会及び ARA&ICA/SPA エジンバラ国際会議 2011「アーカイブと記録の戦略的普及-21世紀、この専門職域のインパクト-」に全史料協を代表して参加したので、これについて報告します。

#### 会議の全貌

日程：2011年8月31日—9月2日

会場：ヒルトン・グロスベナー・ホテル（英国・エジンバラ）

主催：ARA、ICA

参加人数：登録 303 名

#### 開催趣旨

今年、ARA は ICA/SPA に加盟した。SPA は今年創立 35 年記念の年を迎えると云うので、今大会を共催することとなった。ARA は今年、設立一周年を迎えたばかりである。

大会プログラムに掲載されたケイティ・グッドラム ARA 議長の開催挨拶には、ARA の設立経過が次のように述べられている。

「2010年6月、英国とアイルランドでは、それまでの Society of Archivists 英国アーキビスト協会、National Council on Archives 英国公文書館評議会、the Association of Chief Archivists in Local Government 地方公文書館長協会の3団体を ARA として統合することを決めました。予算当局や意思決定担当者に対し、アーカイブ関係機関がより強力かつ戦略的に働きかけられるようになることを目指しての統合であります。この ARA 発足満1年を迎えるにあたり、我々が直面する専門的な活動や資料の利用にかかわるこれまでにないさまざまな問題が見えてきていることを踏まえ、今回は「アーカイブと記録の戦略的普及—21世紀、この専門職域のインパクト—」のテーマを掲げました。」

もう一点、注目すべきコメントがある。ARA の設立に伴い、MLA、英国博物館・図書館・文書館連携委員会が解消されたことが記されているのである。

「さて、ARA の発足に伴い、the MLA は解消し、再び機能が分割されることになりました。これは、英国では新たな課題として関心を呼んでいることでありますし、これにどう呼応するかは、とりもなおさず ARA のメンバーにとっては、その所属を問わずインパクトをもたらすことになるでしょう。この会議では、行政がアーカイブ部門に関する方針をどうするのかを明らかにしようとしています。ARA は、行政における意思決定のプロセスにきちんと関与するよう、位置づけを得る必要があるのです。」

これを見ると、世界でいわゆる MLA 連携の口火を切ったと言われる英国 MLA 連携委員会が解散し、これに代わるものとしてアーカイブ分野が記録管理分野との統合を果たした結果、昨年 6 月に ARA が結成されたことが記されている。もとより博物館、図書館、文書館は取り扱う資料の形状特質がそれぞれ異なっていたために長い時間をかけて相互に分化してきたものである。英国の MLA 連携はすでに一定の役割を終え、本来の三次元資料、印刷物を中心とした複製資料、唯一性の高い記録資料のそれぞれが再びそれぞれの独自性に着眼した機能を探ろうと方向転換をした、と云うことなのであろうか。会場ではこれについての議論を聞く機会がなかったが、MLA が今やトレンドとなっている日本において、注目すべきコメントであろう。



←開会あいさつをするケイティ・グッドラム ARA 議長

大会議室の聴衆↓



## プログラム

プログラムの概要を見ておこう。3日間のプログラムを見ると、全体向けの共通プログラムのほか、参加者の関心により大きく三のテーマに分類されていた。発表者が多かったのはアーカイブと記録分野で、共通テーマ発表者を含めると38名を数えた。但し、アーカイブ分野の発表に限ってみると、20名であり、創設35周年を記念したパネルを取り入れたICA/SPAの登壇者22名よりは、やや少ない。保存修復は、日本では常に関心が高い分野だが、発表者は13名であった。

	8.31 AM	PM	9.01 AM	PM	9.02 AM	PM	発表者数計
共通	4 共通開会行事		9 共通ワークショップ		5		18
アーカイブ	4	3	7 共通ワークショップ	6 共通			20
保存修復	1	3	5	2	2 共通		13
ICA/SPA	2	2 +団体展示	10 パネル	共通ワークショップ		8 1件共通 パネル 年次大会	22
発表者計	11	8	22	11	16	5	73

参加した8月31日のプログラム		
共通プログラム	08:30-10:00 10:00-10:10 10:10-11:00 11:00-11:30 11:30-11:40 16:00-16:30 19:00-20:00	受付 開会の辞 ケイリー・グドラム (ARA), アンリ・ズバル (SPA) 基調講演 ぬるま湯の外に出てアーカイブの先に何があるか 世界銀行図書・文書室長 アーリーン・カンアタ・シード 必要・欲しい・好き—適切な情報と証拠の収集と利用で保存活動の価値を示し支持するスコットランドにおけるアーカイブと記録のコレクション スコットランド国立記録館保存部長 リンダ・ラムセイ 休憩 (tea and coffee break) 休憩 (tea and coffee break) 歓迎レセプション スコットランド国立記録館登記所
アーカイブと記録管理	11:40-13:00 14:00-16:00	アーカイブのための戦略的普及活動 ロンドン博物館の場合 ついに始まる:35年以上の歴史を持つ博物館における機関アーカイブのための戦略的普及活動 (ロンドン博物館記録管理課長 サラ・デーム) 博物館におけるコレクション目録にアーカイブ・アプローチを組み込む:ピラミッドの構築 (ロンドン・ドックランド・ポート&リバー博物館アーキビスト、クレア・フラン克蘭ド) サンズベリー・アーカイブの購入資料・公共博物館における企業アーカイブの評価と利害関係者が示す全方向的要望の均衡をどう保つか (ロンドン・ドックランド博物館サンズベリー・アーカイブ クレア・ウッド) 欧州最大規模の考古アーカイブの管理:デジタル・ワールドにおける諸問題 (ロンドン博物館考古アーカイブ研究センター アーキビスト キャサリン・マロニー、同デジタル担当ジョアンナ・ワイリー) 戦略的普及活動とアクセス:利用者を巻き込む新しい道 戦略的普及活動の代替手法:民間の力を取り込むには (スコットランド古代歴史遺跡ロイヤル・コミッション業務課長カースティ・リングスタッド、同資料課長ジェニー・マーシャル) アーカイブとウェブ上のアーカイブ:デジタル時代フランスにおけるアクセスと通信についての再考 (パリ古文書研究所アーキビスト、マリー・ラペルドリクス、セヌ・サン・ドニス県アーカイブデジタルアーキビ

	16:30-17:00 19:00-	スト、ルルデ・フェント・ハシモト) 演じる／遺す：研究者の立場から（アバリストウィス大学ポスドク研究員エイミー・スタニフォース、同博士課程ジム・ウーリー） <b>ARA 年次総会 共通プログラムへ</b>
保存修復	11:40-13:00  14:00-16:00  16:30-17:00 19:00-	アーカイブのための戦略的普及活動 ロンドン博物館の場合 （アーカイブ部門のプログラム参照） 図書の修復技術（West Dean College コンサーベータ、デイビッド・ドーニング） 酸化が進む鉄汁インクの手当て：カルシウム・phytate を用いた実演（スタフォードシャーアーカイブ、リチャード・ニコルス） 地図の色付け（元アバリストウィス大学講師、ブライアン・デイビス博士） <b>ARA 年次総会 共通プログラムへ</b>
ICA/SPA	11:40-13:00  14:00-15:30  16:00-18:00 19:00-	<b>世界アーカイブ宣言をどう生かすか</b> 司会・ジョージ・マッケンジー（スコットランド国立記録館館長）、 ケベック・アーカイブ宣言はアーカイブ振興にどう用いたか クロード・ロベルト（カナダ、SPA メンバー） アウェアネスの向上：世界アーカイブ宣言を周知と理解向上に用いるには キム・エバーランド（オーストラリア、世界アーカイブ宣言起草ワーキンググループ・メンバー） <b>資格モデルの枠組み：あなたが考えるアーキビスト像とは</b> 司会 バレント・フレデリクソン（スウェーデン）〔代行 クリスチーナ・マルチネス、ICA〕 アグネス・デジョブ（フランス・アーキビスト協会資格モデルプロジェクト担当） <b>各団体の展示 【小川は ICA/SPA のブースで全史料協臨時委員会の 7 月 2 日 3 日釜石・大槌津波被災調査について計5回、英語でプレゼンを行う。】</b> <b>共通プログラムへ</b>

## 参加したセッション—ICA/SPA

この日の開会行事と基調講演に続き、ICA/SPA のセッションに参加した。

### 1. 世界アーカイブ宣言をどう生かすか

司会・ジョージ・マッケンジー（スコットランド国立記録館館長）、

■ケベック・アーカイブ宣言はアーカイブ振興にどう用いたか

クロード・ロベルト（カナダ、SPA メンバー）

■アウェアネスの向上：世界アーカイブ宣言を周知と理解向上に用いるには

キム・エバーランド（オーストラリア、世界アーカイブ宣言起草ワーキンググループ・メンバー）

ケベック・アーカイブ宣言（カナダ）の成立経過に関しては、クロード・ロベルト博士が報告した。これに続き、キム・エバーランド（オーストラリア、世界アーカイブ宣言起草ワーキンググループ・メンバー）が、世界アーカイブ宣言原案の起草経過とこれからの周知と理解向上にむけた方針を説明した。

ここでは、キム・エバーランドによる 2 番目の報告、『アウェアネスの向上：世界アーカイブ宣言を周知と理解向上に用いるには』（オーストラリア、世界アーカイブ宣言起草ワーキンググループ・メンバー）について報告する。

世界アーカイブ宣言（以下 UDA）は、今年春、全史料協が公式日本語バージョンをまとめた

ものである。

「世界アーカイブ宣言」(以下UDA)に関するセッションは、今回参加の最大の目的であった。というのも、2007年秋ケベックでのICA円卓会議でケベック・アーカイブ宣言に触発されたICA/SPAが、2008年春メキシコシティの運営委員会で、UDAの起草に着手したところから、筆者は個人的にもかかわりを持ってきたというこだわりを持ち続けていたからである。

2008年のICAワラルプール大会では、SPAがまとめたUDA案文が総会の議にかけられ、予定ではここで採択されることになっていた。だが、UDA案文は採択されることなく、先送りとなった。その後、2009年マルタの円卓会議でもUDAはICA採択がかなわず、2010年のオスロ円卓会議でようやくICAとしての採択が行われた。これを受け、全史料協では佐々木理事がUDA日本語訳を取りまとめ、2011年春、これが全史料協HP並びにICAHPに掲載されることとなった。これが、筆者の理解しているUDAをめぐるこの間の動きである。

この日のセッションでは、UDAの採択が長引いた理由に、これをユネスコの関与を得てより強固なものとしたいとする意図があったことが説明された。さらに、ユネスコでは、UDAをユネスコのstatement(声明)として、2011年10月25日のユネスコ総会での採択を目指すということが告げられた。また、このために各国のアーキビスト協会並びに国立公文書館機関は、UDAがユネスコの声明として採択にかけられることをそれぞれの国のユネスコ代表に知らせ、総会ではこの採択に賛成の意向を表明するよう、働きかける必要があるという説明も加えられた。

出来上がった各国語のUDA全文は、ICAウェブサイトに掲載するほか、ICAが考案したポスター(テンプレート)に各国語ともに同じ様式で印刷し、周知普及に努めることが提案された。

各国語の翻訳とりまとめに関して、質疑応答の際に若干の議論があった。たとえばドイツ語を公用語としている国は、ドイツのほかにスイス、オーストリアなどがある。そのため、日本語のように単一国家単一言語で翻訳作成をすることはできないという話が聞かれた。

又、UDAに盛り込まれたアーキビスト像が、組織に所属して働く人というよりは、独立した個人として描かれているという指摘がフロアから出された。

## 2. 資格モデルの枠組み：あなたが考えるアーキビスト像とは

司会は、プログラムに登録されていたベルント・フレデリクソン氏(スウェーデン)が体調を崩し欠席したため、クリスチーナ・マルチネス(ICA事務局)がこれを代行した。発表者はアグネス・デジョブ(フランス・アーキビスト協会資格モデルプロジェクト担当)、「資格モデルの枠組み：あなたが考えるアーキビスト像とは」のタイトルのもと、アーキビストの資格モデルをどうするべきか、求められるアーキビストの資質や能力は何かについて、フランス・アーキビスト協会プロジェクトの成果を説明した。この発表は大変興味深ききいたが、日本の実情に照らし、はるかな隔たりが感じられるものであり、どちらかと言えば「ヨーロッパのアーキビスト像」という限定が必要なのではないかという印象は払拭で

きなかった。このことは、その後の休憩時間に、韓国国家記録院の金才淳氏とも話し合ったが、金氏も同様の印象を持ったと語っていた。

### 3. 各団体の展示

ICA/SPA の国際会議は 2007 年秋の第 1 回マドリッド会議に続き、今回が 2 回目である。この国際会議では、毎回 SPA に所属する各専門家団体は、それぞれの団体の活動や特色をアピールするための展示を行う。前回 2007 年の第 1 回では、全史料協もその直前に日本で開催した運営委員会の状況を報じた全史料協会報などを展示した実績がある。今回は、全史料協の資料を持参することはかなわなかった。しかし、SPA 会長、アンリ・ズベル氏と当日調整を行い、ICA/SPA のブースにパソコンをおいてもらい、3 月 11 日の東日本大震災と公文書等の被災状況（おもに津波被害と被災資料の救助）を持参のパワーポイントを用いて、計 5 回、英語でプレゼンを行った。観覧者は合計 40 名程度と推計される。



なお、プレゼンには、大半は全史料協臨時委員会の 7 月 2 日 3 日釜石・大槌津波被災調査に参加した時に小川が撮影した写真を用いた。

(下はその一部)





## 会議場の外で

会議室 3 室は 100 名程度を収容する 2 室と 300 名収容の大会議室、休憩時間にはコーヒーと紅茶、それにスコッチ・ビスケットやチョコレートが供された。また、昼食はホテル



のレストランでセルフサービスの提供があり、旧交を温める人々が談笑する時間をたっぷりととることができた。

特に、もとリバプール大学教授でアーカイブ研究教育の泰斗、マイケル・クック氏との再会は、心に残った。  
(写真、撮影は韓国国家記録院の金才淳氏)

中国代表団長段東昇氏

中国からこの会議には 6 人の代表団が参加していた。その団長の段東昇氏は筆者にとっては 1994 年以来の旧知の間柄である。現在は中国国家档案局副局长と知り、頼もしく思った。段氏との旧交を温める際には、李紅氏の通訳に大変助けられた。

金才淳氏（韓国国家記録院）

同じアジア系ということで挨拶したのが、韓国国家記録院の金才淳氏。初対面ではあったが、親しく話すことができた。韓国が 2016 年の ICA 大会を招致したいということで、金氏は「大会招致が実現すれば、自分はその中心として活動することになる立場」と語っていた。2016 年 ICA 大会に関しては、別の関係者から、他にフランスが大会招致に動いているとも聞いた。しかし、フランスの大会招致はやや盛り上がりには欠けた印象がある。

デイビッド・ライチ ICA 事務総長

ICA 事務総長のデイビッド・ライチ氏とも、話す機会があった。

「11 月に EASTICA 総会が東京で開催される。おいでになる予定は？」と問いかけたところ、「自分に何らかの役割、たとえば挨拶をすとか、発表をすとかということがあれば、ぜひ行きたい。」という意欲的な返事。ICA の事務総長の来日といえば、ケシュケメティ氏は 1991 年に、ヨアン・ファン・アルバダ氏も 2001 年と 2006 年に来日していると記憶する。ライチ氏の受け答えを聞いて、ヨーロッパの人々にとって、日本はなお行ってみたい土地なのだろう。



## 歓迎レセプション@スコットランド国立記録館登記所

午後のセッション終了後、会議参加者全員は、スコットランド国立記録館登記所の歓迎レセプションに招かれたので、ここに参加した。

会議場からスコットランド国立記録館登記所までは徒歩5分、という「ウワサ」ではあったが、実際には30分も歩いたのではないかと、一緒に歩いた人々がささやき合っていた。

会場の入り口にはキルトを着用してバグパイプを奏でる音楽隊が私たちを出迎えてくれた。



建物は国立記録館本館であり、レセプションの最中も閲覧室では数多くの利用者が資料を閲覧している様子であった。このレセプションは、飲み物だけが供され、8時ごろにお開きとなった。この後、参加者はそれぞれの仲間とともにエジンバラの町に散って行った。

筆者は、イスラエル・アーキビスト協会会長、ミハル・ヘンキン氏はじめ、フレッド・ファン・カン氏（オランダ）、ベルンハルト・ポスト氏夫妻（ドイツ）とともに、とあるパブに立ち寄り、「フィッシュ・アンド・チップス」を食べた。同じパブには、イギリスのコンサーベータの男性が二人いて、気軽に声をかけてくれたのが楽しかった。

プログラム 8月31日午前の部

Wednesday 31 <sup>st</sup> August 2011 - morning	
Archives & Records Management	8.30-10.00 Registration
	10.00-10.10 <b>Conference Welcome</b> Katy Goodrum, Chair, Archives and Records Association and Henri Zuber, President, Section of Professional Associations (SPA), International Council on Archives
	10.10-11.00 <b>Keynote Address: Outside the Comfort Zone: Staying Ahead of the Curve</b> Aleen Cannata Seed, Head, Library and Archives of Development, The World Bank
	11.00-11.30 <b>Need, Want, Like – Collecting and using the right information and evidence to demonstrate value and support preservation activities in archive and record collections in Scotland</b> Linda Ramsay, Head of Conservation, The National Records of Scotland
	11.30-11.40 Tea and Coffee Break
	11.40-13.00 <b>Advocating for Archives: The Museum of London, A Case Study</b> <b>Coming Last: Advocating for an Institutional Archive of a 35+ Year Old Museum</b> Sarah Demb, Records Manager, Museum of London <b>Building a Pyramid: Advocating for an Archival Approach to Collection Cataloguing within the Museum Environment</b> Claire Frankland, Archivist, Port & River, Museum of London Docklands <b>Buying into the Sainsbury Archive: Evaluating a Corporate Archive in a Public Museum and Balancing Multiple Stakeholder Requirements</b> Clare Wood, Archivist, Sainsbury Archive, Museum of London Docklands <b>Managing One of Europe's Largest Archaeological Archives: The Challenges Faced by an Increasingly Digital World</b> Catharine Maloney, Archivist, Museum of London (Archaeological Archive & Research Centre) and Joanna Wylie, Records (Digital) Officer, London Archaeological Archive and Research Centre, Museum of London
	13.00-14.00 Lunch
Conservation	8.30-10.00 Registration
	10.00-10.10 <b>Conference Welcome,</b> Katy Goodrum, Chair, Archives and Records Association and Henri Zuber, President, Section of Professional Associations (SPA), International Council on Archives
	10.10-11.00 <b>Keynote Address: Outside the Comfort Zone: Staying Ahead of the Curve</b> Aleen Cannata Seed, Head, Library and Archives of Development, The World Bank
	11.00-11.30 <b>Need, Want, Like – Collecting and using the right information and evidence to demonstrate value and support preservation activities in archive and record collections in Scotland.</b> Linda Ramsay, Head of Conservation, The National Records of Scotland
	11.30-11.40 Tea and Coffee Break
	11.40-13.00 <b>Advocating for Archives: The Museum of London, A Case Study</b> Please see the section above for the list of presentations and speakers
	13.00-14.00 Lunch
ica:spa	8.30-10.00 Registration
	10.00-10.10 <b>Conference Welcome,</b> Katy Goodrum, Chair, Archives and Records Association and Henri Zuber, President, Section of Professional Associations (SPA), International Council on Archives
	10.10-11.00 <b>Keynote Address: Outside the Comfort Zone: Staying Ahead of the Curve</b> Aleen Cannata Seed, Head, Library and Archives of Development, The World Bank
	11.00-11.30 <b>Need, Want, Like – Collecting and using the right information and evidence to demonstrate value and support preservation activities in archive and record collections in Scotland</b> Linda Ramsay, Head of Conservation, The National Records of Scotland
	11.30-11.40 Tea and Coffee Break
	11.40 -13.00 <b>Using the Universal Declaration on Archives</b> <b>Chair:</b> George MacKenzie, Keeper of the Records, The National Records of Scotland <b>How the Déclaration Québécoise is used to Promote Archives</b> Claude Roberto Ph.D. Canada, Member of SPA Steering Committee <b>Raising Awareness: Using the Universal Declaration on Archives for promotional purposes</b> Kim Eberhard, Australia, Member of the UDA Working Group
	13.00-14.00 Lunch

## プログラム 8月31日午後の部

Wednesday 31 <sup>st</sup> August 2011 - afternoon	
14.00-16.00	<b>Advocacy and Access: New Ways of Engaging Users</b> <b>Alternative Methods of Advocacy: Harnessing the Power of the Public</b> Kirsty Lingstadt, Collections Operational Manager, and Jennie Marshall, Collections Manager, Royal Commission on the Ancient and Historical Monuments of Scotland <b>Archivists and Archives on the Web: Rethinking Access and Communication in France in the Digital Age</b> Marie Laperdrix, Archivist, Institut National du Patrimoine (Paris) and Lourdes Fuentes Hashimoto, Digital Archivist, Archives départementales de Seine-Saint-Denis <b>Performing/Archiving: Engagement Experiments with Academic Audiences</b> Amy Staniforth, Postdoctoral Research Assistant and Jim Woolley, PhD Candidate, Aberystwyth University
16.00-16.30	Tea and Coffee Break
16.30-17.00	Archives and Records Association UK and Ireland Annual General Meeting
19.00-20.00	Welcome Drinks Reception Hosted by the National Records of Scotland, General Register House and sponsored by brightsolid Welcome by Fiona Hyslop, Cabinet Secretary for Culture and External Affairs, the Scottish Government
<hr/>	
14.00-16.00	<b>Analytical techniques for book conservation</b> David Dornig <b>Treatment of reactive Iron Gall inks. A presentation and demonstration on Calcium Phytate treatment</b> Richard Nichols, Staffordshire Archives <b>Colouring Maps</b> Dr Brian Davies, Independent Lecturer, Aberystwyth University (Retired)
16.00-16.30	Tea and Coffee Break
16.30-17.00	Archives and Records Association UK and Ireland Annual General Meeting
19.00-20.00	Welcome Drinks Reception Hosted by the National Records of Scotland, General Register House and sponsored by brightsolid Welcome by Fiona Hyslop, Cabinet Secretary for Culture and External Affairs, the Scottish Government
<hr/>	
14.00-15.30	<b>The Competency Model Framework: shape your own archivist</b> <b>Chair:</b> Berndt Fredriksson, Sweden, Member of SPA Steering Committee <b>Discussant:</b> Agnes Dejob, Association des Archivistes Français, Competency Model Project Manager
15.30-16.00	Tea and Coffee Break
16.00-18.00	Associations Fair
19.00-20.00	Welcome Drinks Reception Hosted by the National Records of Scotland, General Register House and sponsored by brightsolid Welcome by Fiona Hyslop, Cabinet Secretary for Culture and External Affairs, the Scottish Government